

平成 29 (2017) 年度 学習院大学 在学生調査

第 1 章 基本集計結果

調査概要

調査目的	本学の教育の成果を定量的に分析するための基礎的データをとるとともに、在学生本人が大学生活を振り返るための経時的データを蓄積すること。
調査対象	本学学部学生全員 ※調査期間において休学中・留学中等の者を個別に除く。
調査時期	1～3年生： 毎年度1月下旬～3月頃（当該年度の授業・試験の終了時期以降） 4年生： 毎年度4月上旬～5月頃（卒業が確定した学生のみを対象とする）
調査方法	ラーニング・ポートフォリオシステム「manaba」を経由した Web アンケート形式 （在学生調査システムは本学計算機センター内にサーバを設置、「manaba」にログイン後シングルサインオンによりアクセスする。）
調査項目	<ul style="list-style-type: none">○共通項目<ul style="list-style-type: none">当該学年の授業期間における学習や課外活動について定期試験や期末課題のために行った学習時間（1年生以外）休業期間における学習や課外活動（1年生以外）当該学年の間に身につけた知識・能力在学期間中の留学経験と日数（3、4年生のみ） ○1年生のみ<ul style="list-style-type: none">大学入学時点までの学習習慣や成績○2年生のみ<ul style="list-style-type: none">なし（全学年共通の項目を自らが1年生のときと2年生のときの両方の場合にかけて調査した）○3年生のみ<ul style="list-style-type: none">なし○4年生のみ<ul style="list-style-type: none">卒業論文・卒業研究の執筆について大学時代に楽しみだった科目キャリアセンターの行事について卒業後の進路教育や学生生活の満足度

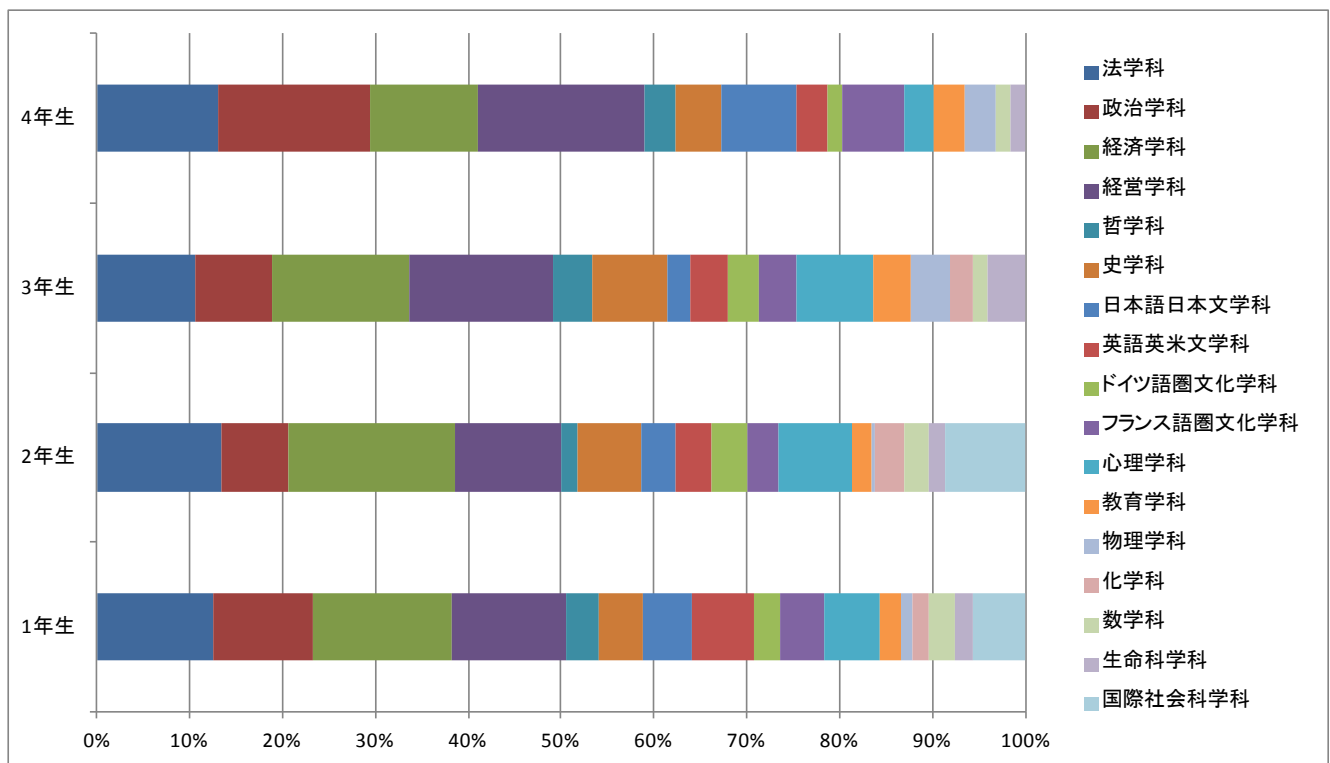
回答状況

・全体的な回答状況

学年	対象者数	回答者数			
		全問回答	一部回答	合計	分析数※
1年生	2,333	505 (21.6%)	132 (5.7%)	637 (27.3%)	616 (26.4%)
2年生	2,255	210 (9.3%)	264 (11.7%)	474 (21.0%)	290 (12.9%)
3年生	2,004	111 (5.5%)	70 (3.5%)	181 (9.0%)	122 (6.1%)
4年生	1,844	50 (2.7%)	51 (2.8%)	101 (5.5%)	61 (3.3%)
全体	8,436	—	—	—	1,089 (12.9%)

※「分析数」…少なくとも2問以上に回答した学生のデータを分析に用いた。

・各学年の学科ごとの回答者

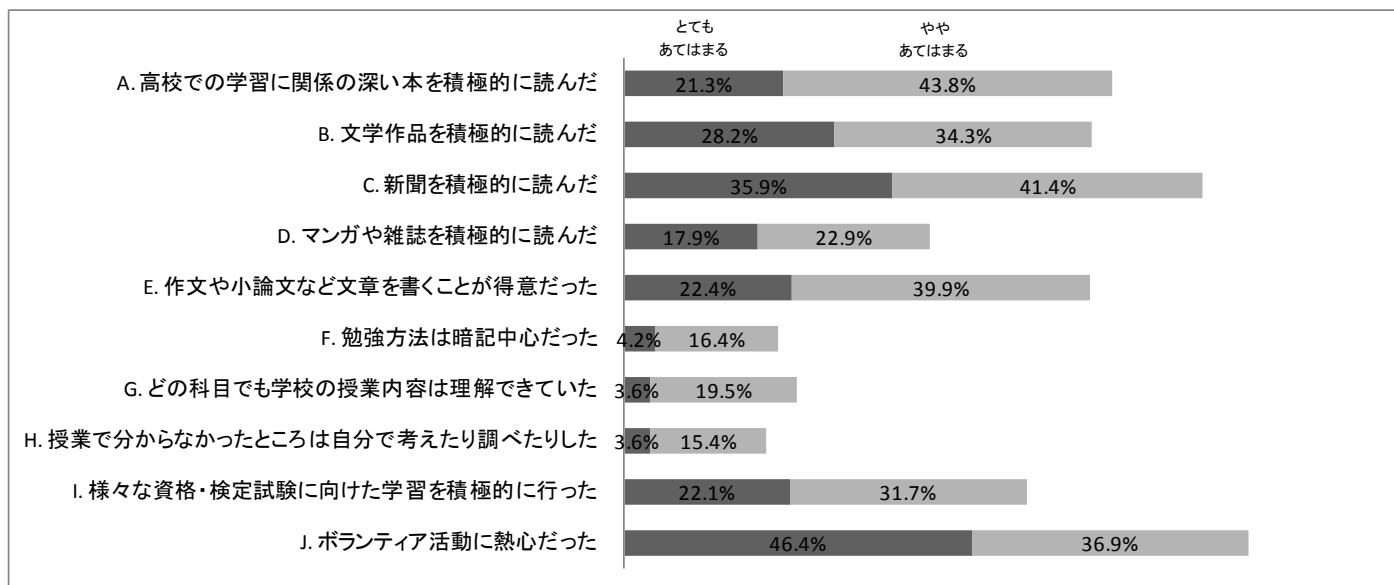


	法学科	政治学科	経済学科	経営学科	哲学科	史学科	日本語日本文学科	英語英米文学科	ドイツ語圏文化学科	フランス語圏文化学科	心理学科	教育学科	物理学科	化学科	数学科	生命科学科	国際社会科	全体 (全対象者に対する割合)
1年生	77 12.5%	66 10.7%	93 15.1%	75 12.2%	22 3.6%	29 4.7%	33 5.4%	41 6.7%	17 2.8%	30 4.9%	36 5.8%	14 2.3%	8 1.3%	11 1.8%	17 2.8%	12 1.9%	35 8.6%	616 26.4%
2年生	39 13.4%	21 7.2%	52 17.9%	33 11.4%	5 1.7%	20 6.9%	11 3.8%	11 3.8%	11 3.8%	10 3.4%	23 7.9%	6 2.1%	1 0.3%	9 3.1%	8 2.8%	5 1.7%	25 8.6%	290 12.9%
3年生	13 10.7%	10 8.2%	18 14.8%	19 15.6%	5 4.1%	10 8.2%	3 2.5%	5 4.1%	4 3.3%	5 4.1%	10 8.2%	5 4.1%	5 4.1%	3 2.5%	2 1.6%	5 4.1%	0 0.0%	122 6.1%
4年生	8 13.1%	10 16.4%	7 11.5%	11 18.0%	2 3.3%	3 4.9%	5 8.2%	2 3.3%	1 1.6%	4 6.6%	2 3.3%	2 3.3%	2 3.3%	0 0.0%	1 1.6%	1 1.6%	0 0.0%	61 3.3%

1年生への質問項目

大学入学時点までのことがら

Q01 高校時代のあなたの習慣について、あてはまるものを1つ選んでください。
 (「とてもあてはまる」～「全くあてはまらない」の4件法)



●割合が高い項目 (「とてもあてはまる」、「ややあてはまる」の合計)

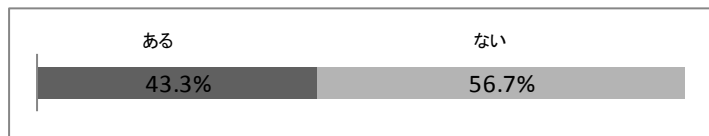
「J. ボランティア活動に熱心だった」(83.3% : A~J 中で最多)

その他、A、B、C、E など、読み書きに関する学習習慣は比較的高い結果であった。

●割合が低い項目

F、G、H は、すべて 25%未満。暗記したり、自分で調べたりといった知識を充実させる学習習慣は、高校時代にはなかった傾向が顕著であった。

Q02 あなたは、中学・高校時代に、海外で過ごした経験 (留学や短期研修旅行、修学旅行なども含む) がありますか。



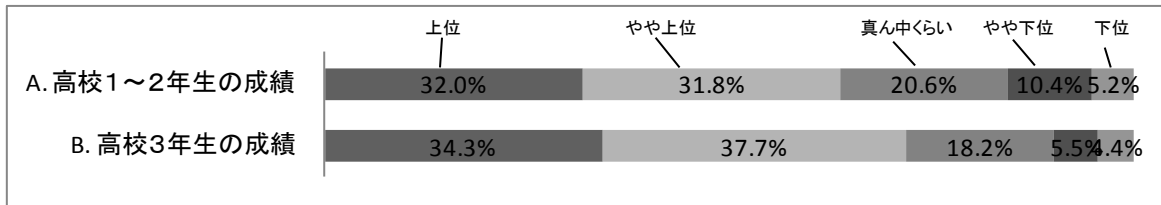
1週間(7日)未満	64
1週間以上2週間(14日)未満	70
2週間以上1ヶ月(30日)未満	81
1ヶ月以上2ヶ月(60日)未満	27
2ヶ月以上1年未満	15
1年以上	11

留学・海外経験のある学生の平均日数… **58.9日** (最短1日～最長920日)

留学・海外経験があると答えた学生は、分析数の4割を超えて267名(後述の3・4年生の結果も参照)で、日数の平均は、58.9日となった。期間ごとの内訳は上表右の通りで、2週間以上の海外経験者が134名(経験者のうち50%)であった。このことから、1年生は中学・高校時代に海外で長期間過ごした経験者が比較的多いことがうかがえる。

Q03 あなたの高校時代の成績はどのくらいだったと思いますか。

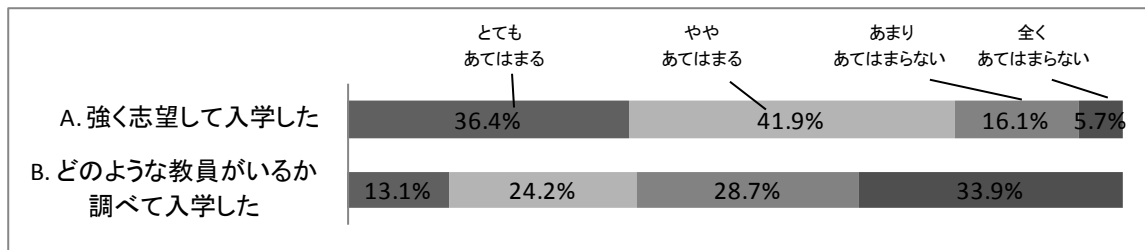
(「上位」～「下位」の5件法)



高校3年生の成績は比較的上位であったと答えた学生が72.0%（「上位」、「やや上位」）と、多くの学生は上位にいたと感じていることがうかがえる。

Q04 あなたが入学した学科について、あてはまるものを1つ選んでください。

(「とてもあてはまる」～「全くあてはまらない」の4件法)



学習院へ「強く志望して入学した」と答えた学生は78.2%（「とてもあてはまる」、「ややあてはまる」）で、学生の多くは本学への志望度が高かったことがうかがえる。しかし、どのような教員がいるかまでを調べる学生は37.3%と比較的少ない。

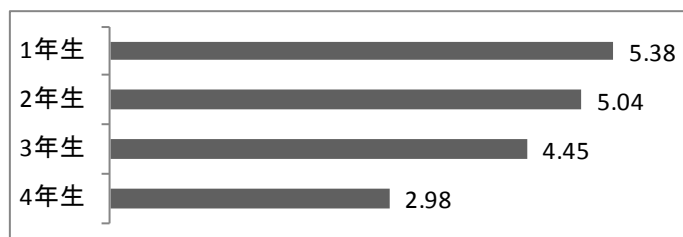
このことから、強く志望はしていても、どのような大学かという概要を調べるだけにとどまる学生が多いことが分かる。

各学年共通項目

授業期間中における学習や課外活動

Q01 あなたは、授業期間中、大学には1週間あたり平均で何日くらい来ていましたか。

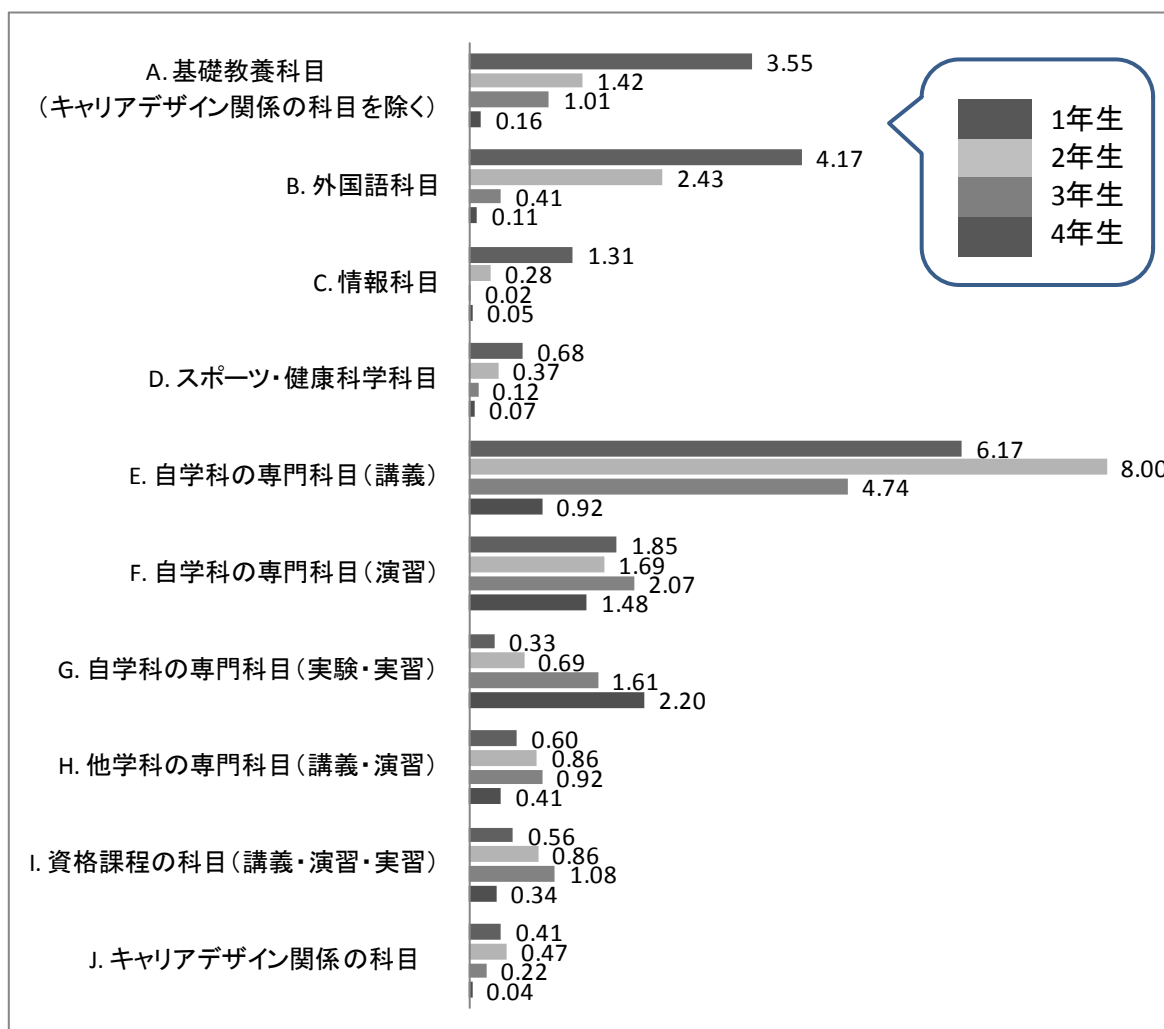
(日数で回答)



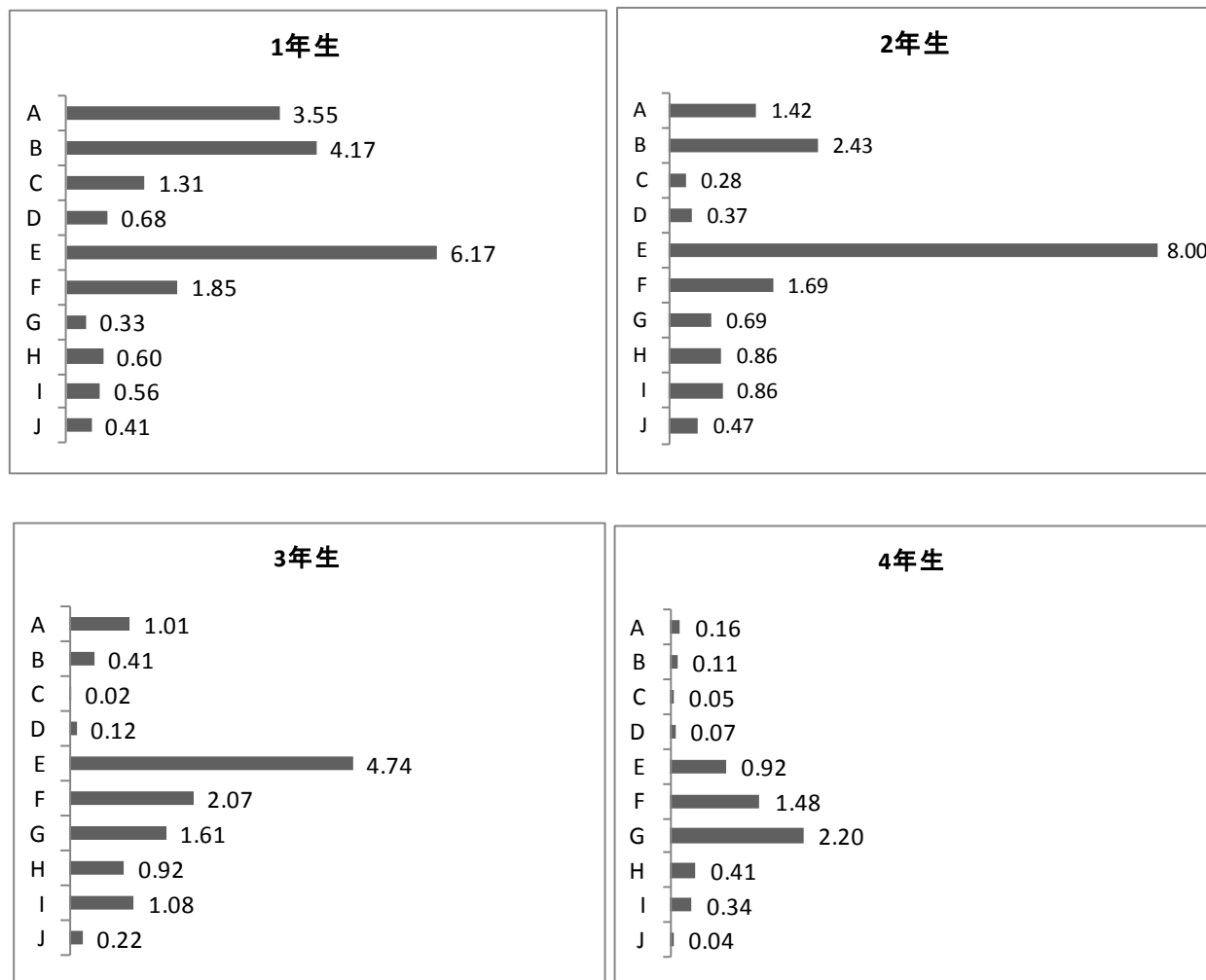
Q02 あなたは、授業期間中、以下の授業に1週間あたり平均でどのくらいの時間出席していましたか。

(時間数で回答)

全学年比較



学年毎の項目別比較



【全学年の比較から】

基礎教養科目、外国語科目は、1年生が最も時間を使っており、学年が上がるにつれ少なくなり、4年生ではほぼ受講されていない。情報科目、スポーツ・健康科学科目については、1・2年生でほぼ必要な科目の履修が完了していることがうかがえる。

自学科の専門科目への出席時間は、講義では2年生で最も時間数が多く、4年生ではかなり減少する。多くの学生が、3年生までに必要な講義科目の履修を完了していることがうかがえる。一方、演習では、4年間を通じてほぼ一定の時間数が取られており、実験・実習になると4年生になるにつれて時間数は増大していく。他学科の専門科目・資格課程の科目への出席時間は、3年生までに少しずつ増え、4年生ではほとんど取られていない。キャリアデザイン関係の科目では、1・2年生で時間が取られ、3年生で減り、4年生ではほとんど取られていない。

【学年ごとの項目別比較から】

1年生では、自学科の専門科目（講義）、基礎教養科目、外国語科目に多くの時間が割かれている。2年生も1年生と同様の傾向だが、基礎教養科目・外国語科目の割合が若干減り、自学科の専門科目（講義）に集中していく様子が表れている。3年生では、自学科の専門科目に注力し、講義だけでなく演習、実験・実習の比重も多くなっている。4年生では、自学科の演習や実験・実習が主となっている。

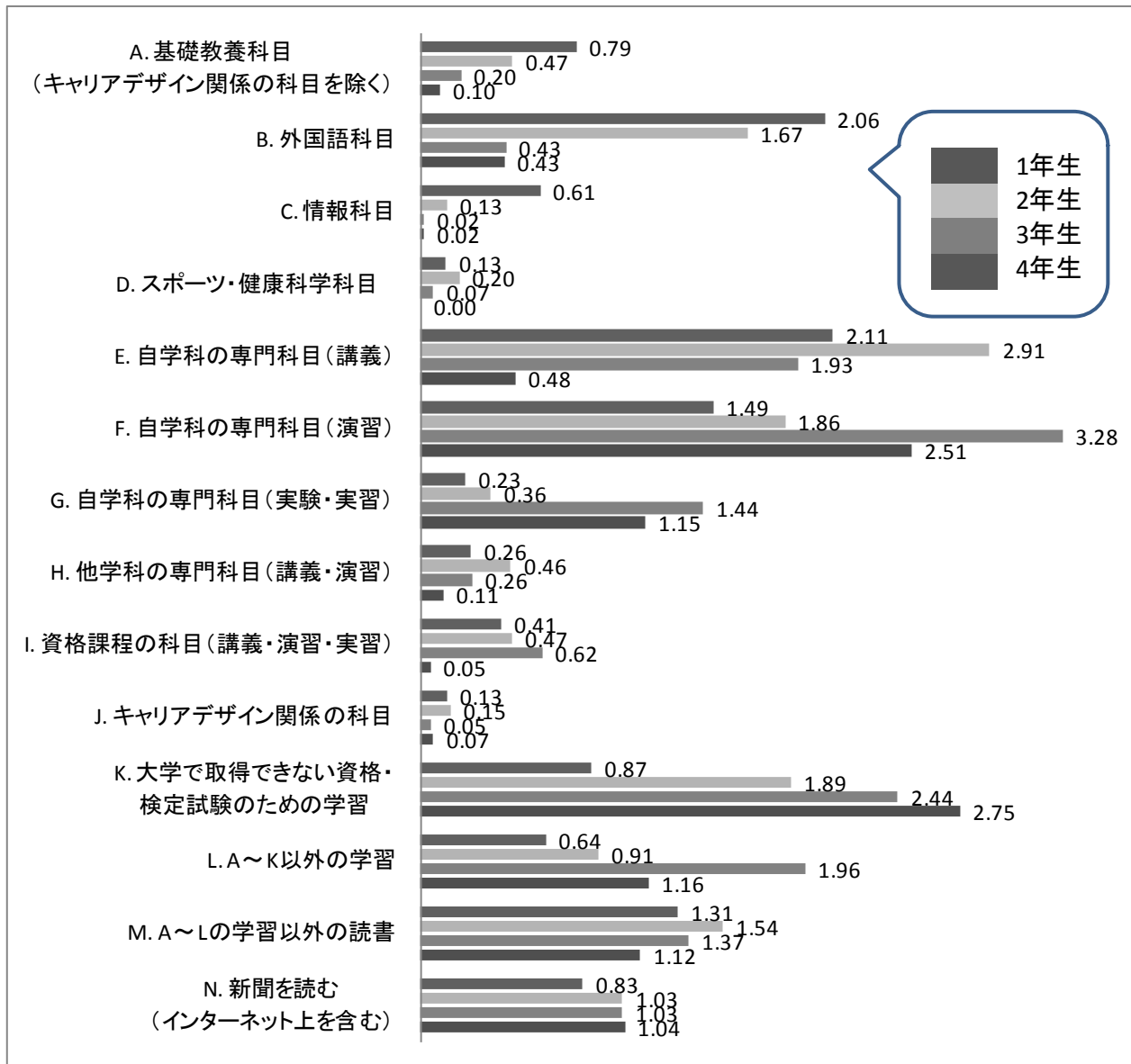
カリキュラムを鑑みても、学年が上がるにつれて講義が減り、演習、実験・実習の比重が大きくなることは想定され、学生がおおよそカリキュラムどおりに履修できていることがうかがえる。

Q03 あなたは、授業期間中、以下のことがらに1週間あたり平均でどのくらい時間をつかいましたか。

(時間数で回答)

授業関連項目

(A~Lは、各科目に関する授業時間外の学習(予習・復習・課題作成など)の時間を指す)

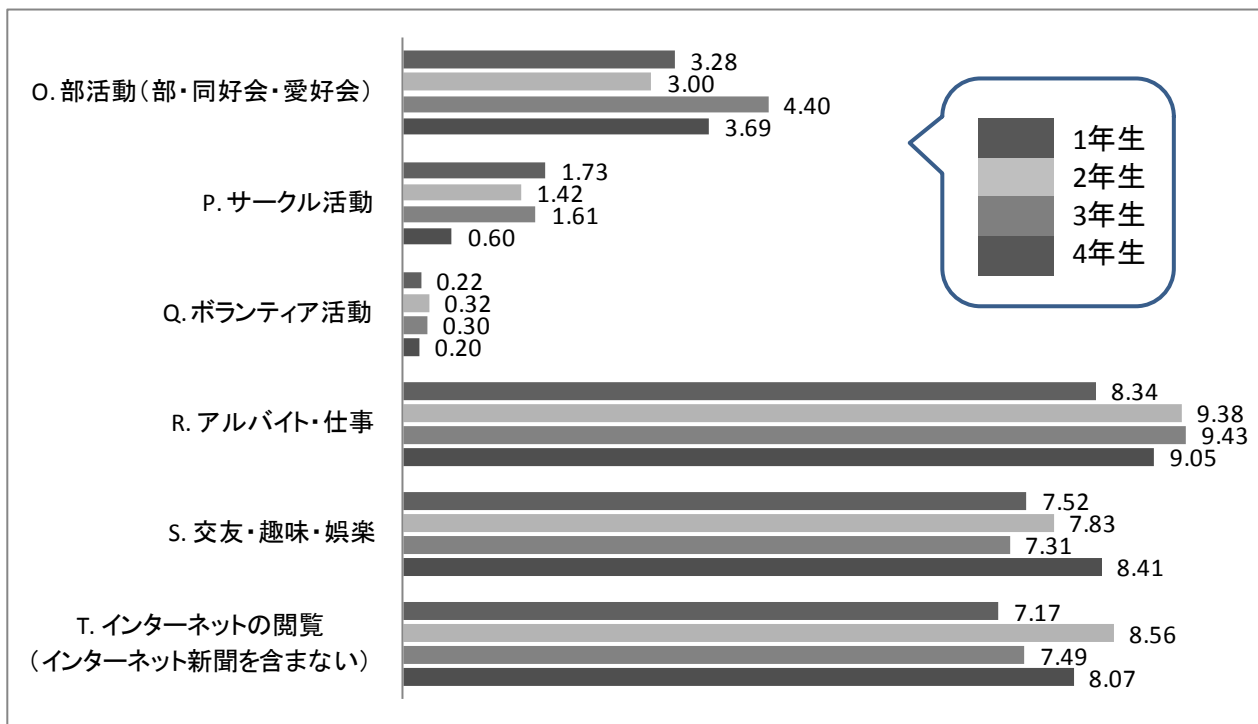


【授業関連の学習項目】

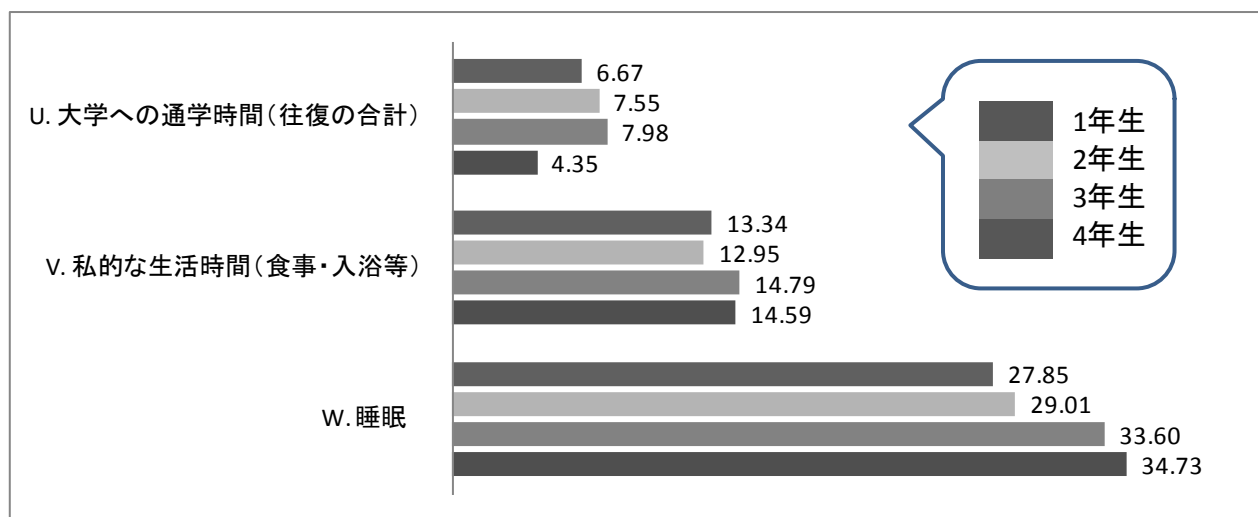
授業への出席時間の傾向とほぼ同様の傾向が読み取れる。また、大学で取得できない資格・検定試験のための学習は、学年が上がるごとに伸びていくことが分かる。

A~K以外の学習では、3年生が最も顕著に時間を使っており、4年間で最も余裕のある学習行動ができる学年といえるだろう。上記に関連しない読書(項目M)には、どの学年の学生もある程度の時間を割いている。

課外活動関連項目



生活関連項目



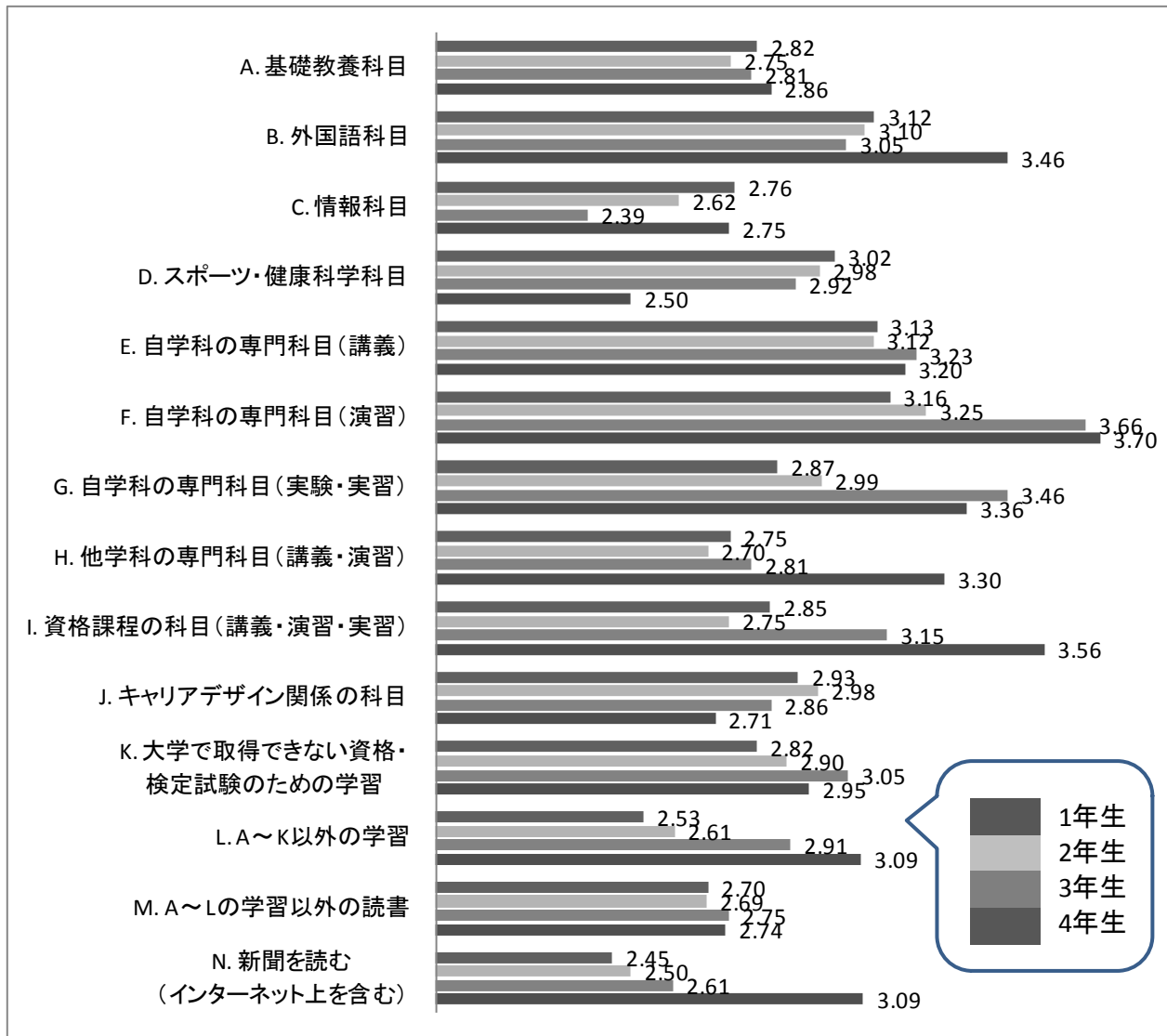
【課外活動関連項目、生活関連項目】

比較的どの項目も安定しており、学年間の変化が少ない。サークル活動では4年生の参加は少なくなるが、部活動では4年生になってもほぼペースダウンせず参加していることが分かる。アルバイトの時間は、平均してどの学年も1週間あたり9時間程度(週3日であれば1日あたり3時間程度)であった。

睡眠時間は、1日にすると平均5時間未満であり、授業期間中の忙しさがうかがえる。

Q04 あなたは、授業期間中、大学の授業やその他の学習などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。

(「経験しなかった」を0とし、「とても意欲的だった」(4)～「全く意欲的でなかった」(1)の5件法)



※ 経験ありの者の回答の平均 (0は計算に含まない)

各項目について経験のあった人数

	1年生	2年生	3年生	4年生
A. 基礎教養科目	419	122	52	7
B. 外国語科目	483	164	40	13
C. 情報科目	497	53	18	8
D. スポーツ・健康科学科目	304	55	25	6
E. 自学科の専門科目(講義)	493	203	101	25
F. 自学科の専門科目(演習)	429	161	106	43
G. 自学科の専門科目(実験・実習)	135	72	39	14
H. 他学科の専門科目(講義・演習)	202	92	52	10
I. 資格課程の科目(講義・演習・実習)	186	68	39	9

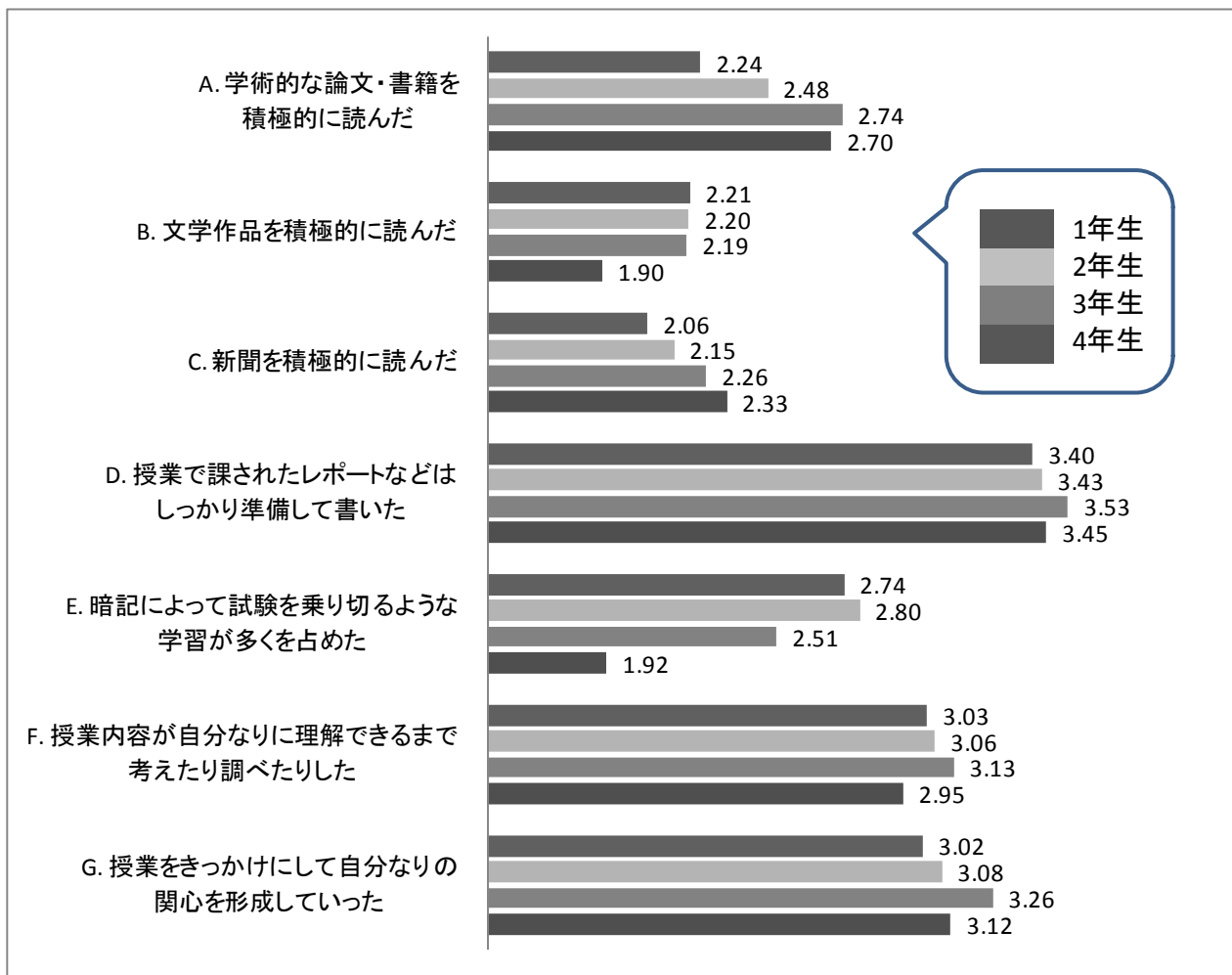
J. キャリアデザイン関係の科目	193	89	28	7
K. 大学で取得できない資格・ 検定試験のための学習	207	98	55	22
L. A～K 以外の学習	254	95	54	23
M. A～L の学習以外の読書	346	143	80	27
N. 新聞を読む (インターネット上を含む)	376	150	94	32

上表のように、回答者のうち経験した人数が極端に少ない項目が含まれるため、結果に関しては他と比べて慎重にとらえたいが、おおよその傾向として、講義科目は学年が上がっても意欲は高まりにくい、演習や実験・実習は学年が上がるにつれて意欲も高まるといえるだろう。

また、基礎教養科目と、自学科の専門科目（講義）とを比較すると、自学科専門科目（講義）の方が意欲的に取り組まれていることも概ね明らかな傾向といえる。

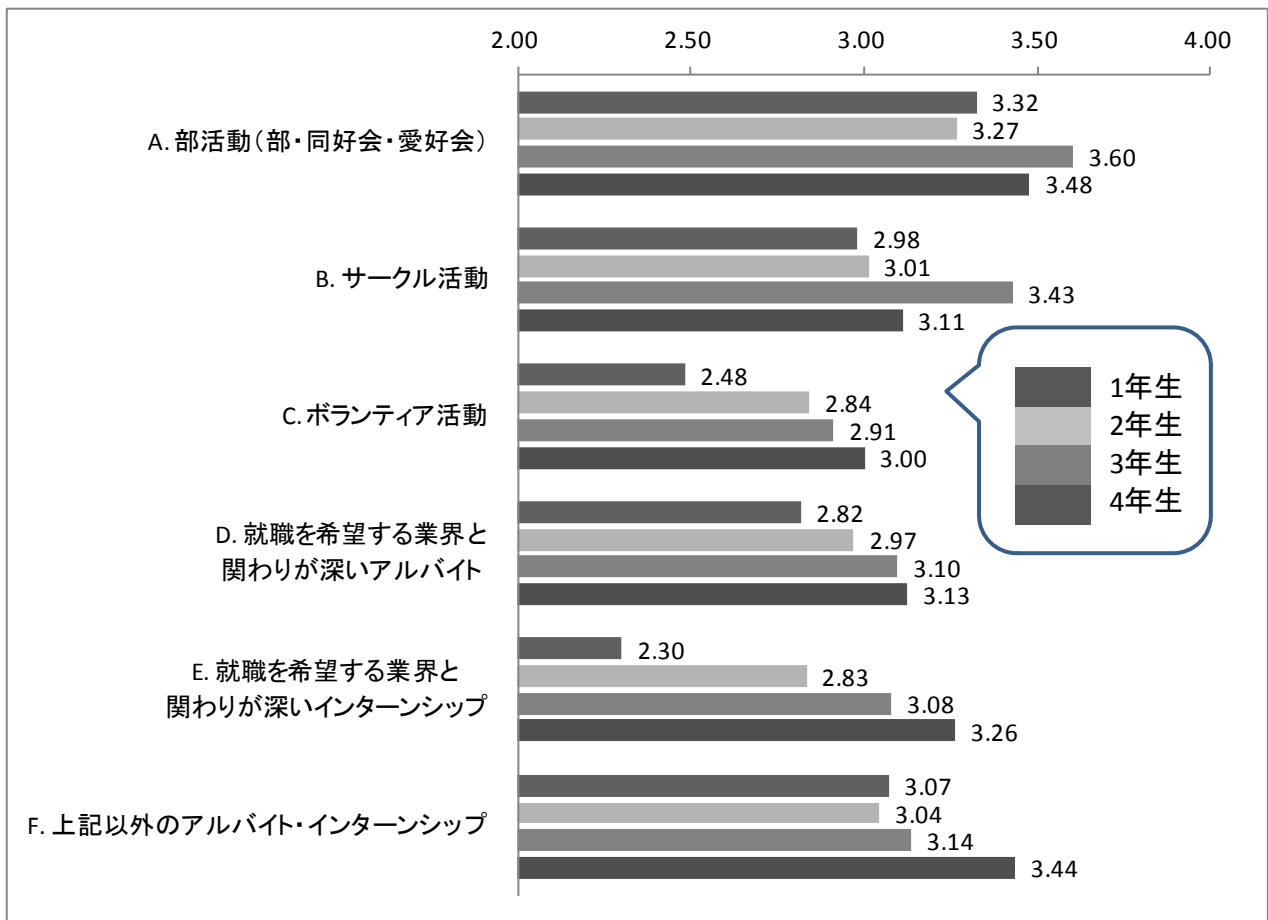
Q05 あなたは、授業期間中、どのような学び方をしてきましたか。

(「とてもあてはまる」(4)～「全くあてはまらない」(1)の4件法)



平均が「ややあてはまる」の 3.00 のラインを超えているのは、レポートへの取り組みや、自分なりに理解できるまで考えたり調べたりする（4年生以外）、自分なりの関心を形成する、の項目であった。授業で必要となる課題への取り組みを熱心に行いながら、自分なりの理解、関心を育てていく様子が見え、暗記で試験を乗り切るようなことは特に3・4年生では少なくなる傾向にある。4年生になると講義科目がほとんどなくなり（Q02に前述）、暗記では対処できないことも要因として想像されるが、学術的な論文・書籍、新聞などの項目も3・4年生で高まっていることを勘案すると、自分なりの関心をもとに学習していく際の情報源が多少なりとも広がっていることが想像される。

Q06 あなたは、授業期間中、課外活動などにどのくらい意欲的に取り組みましたか。
 (「経験しなかった」を0とし、「とても意欲的だった」(4)～「全く意欲的でなかった」
 (1)の5件法)



各項目について経験のあった人数

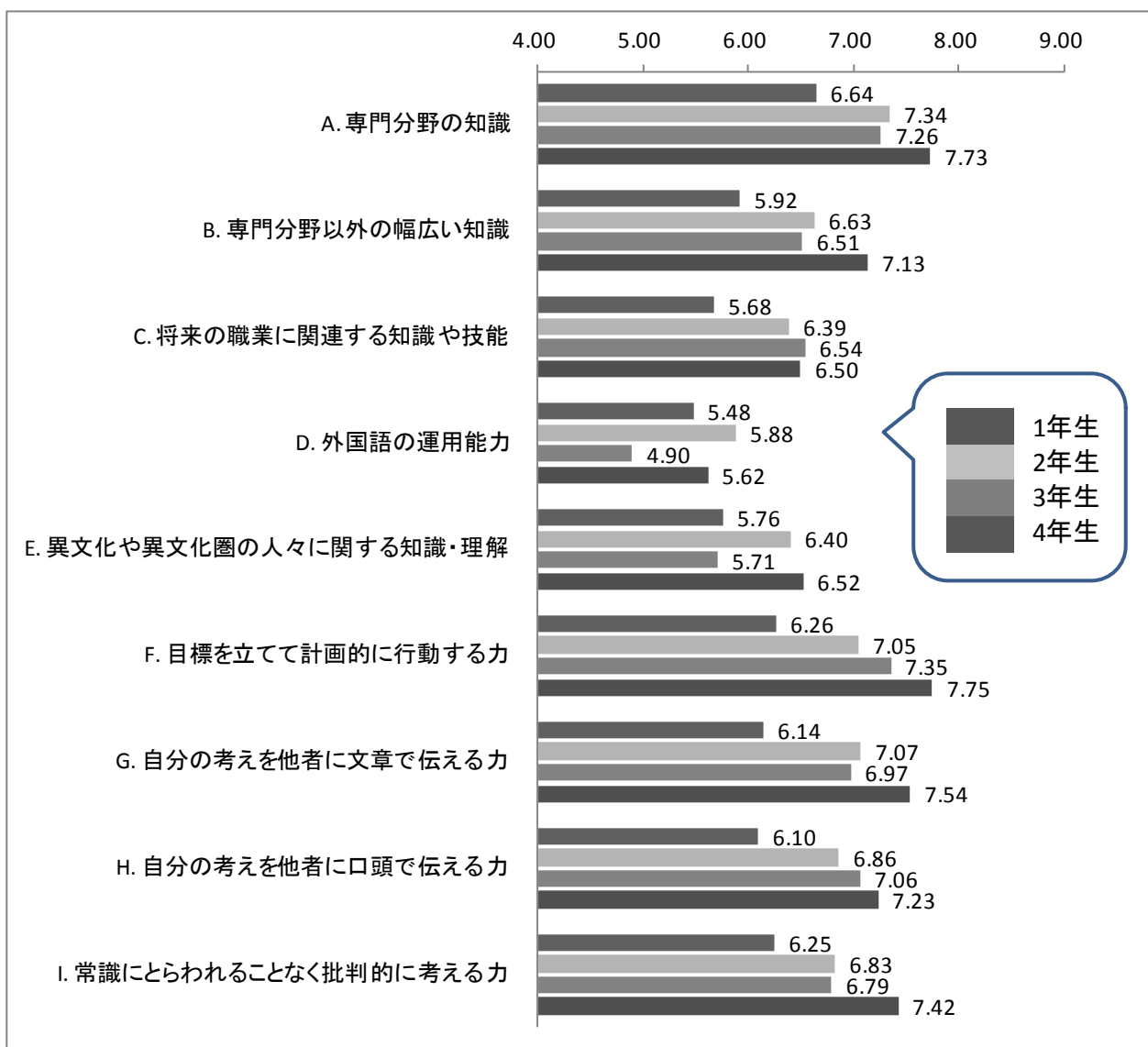
	1年生	2年生	3年生	4年生
A. 部活動(部・同好会・愛好会)	238	90	58	23
B. サークル活動	269	87	42	18
C. ボランティア活動	116	38	23	9
D. 就職を希望する業界と 関わりが深いアルバイト	170	69	41	16
E. 就職を希望する業界と 関わりが深いインターンシップ	63	36	63	19
F. 上記以外のアルバイト・ インターンシップ	337	136	81	39

部活動やサークル活動への取り組み意欲は、3年生が最も高く、4年生になると落ち着く傾向にある。その他、ボランティアやアルバイト・インターンシップは、総じて学年が上がるにつれて意欲も高まり、学生の意識が卒業後の社会に向いていく様子がうかがえる。

Q06 現時点で、あなたが以下に示すような知識・能力をどのくらい身につけることができましたか。(全18項目)

(「しっかり身についた」(10)～全く身につかなかった(1)の10件法)

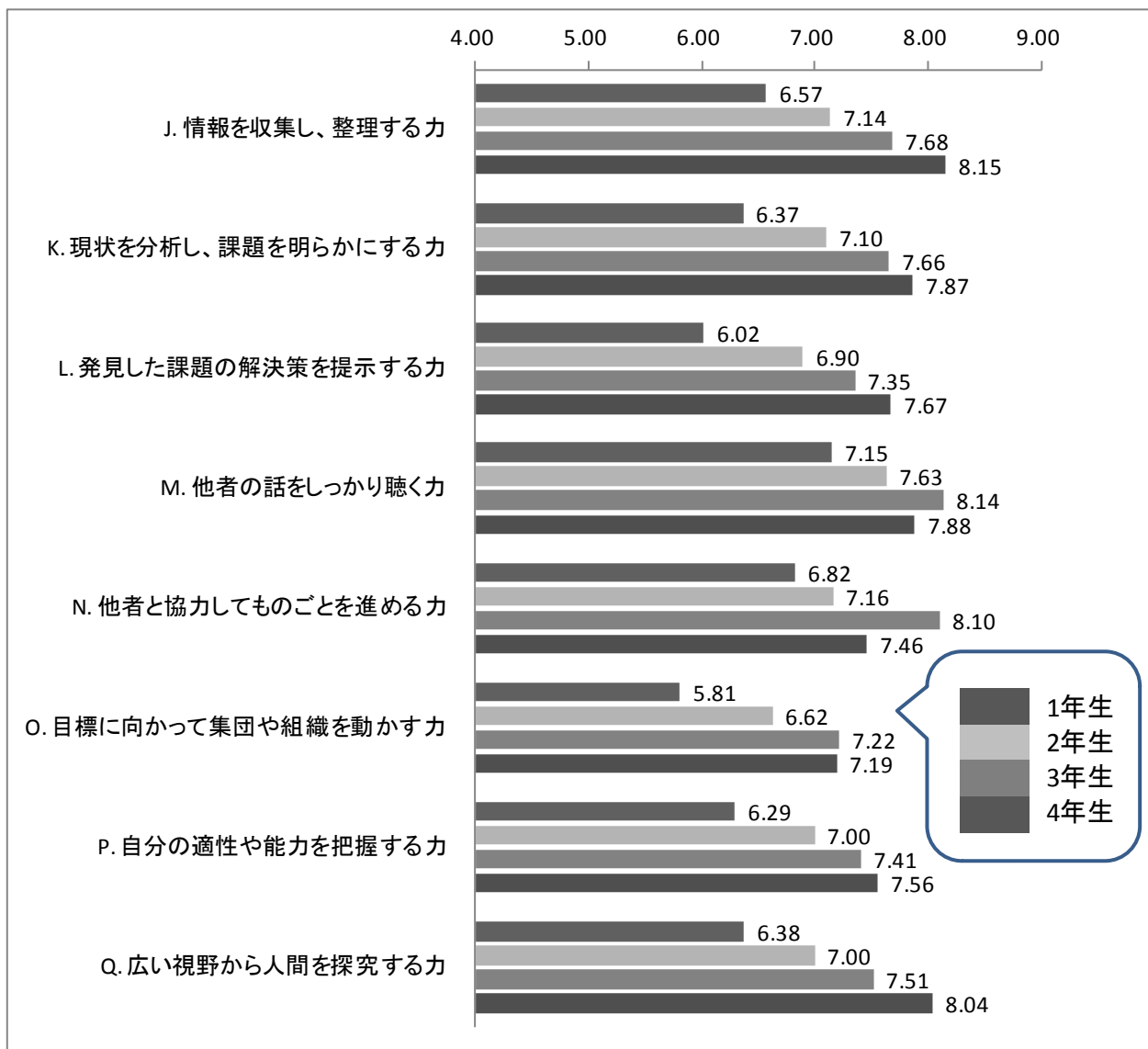
前半9項目



Q06は10段階で聞いているため、6以上がポジティブな回答であるといえる。多くの項目(D・E以外)で、3・4年生になるにつれ、修得の実感が高まってきていることがうかがえる。G・Hは、大学生活では特に演習科目、実験・実習科目で必要とされる力であると思われ、この項目が4年生になるに従って高まることは、大学における学習の結果といえそうである。

全ての学年で平均が6を超えないのは「D.外国語の運用能力」のみであった。また、比較的平均が低く回答傾向がDに似ているものとして、「E.異文化や異文化圏の人々に関する知識・理解」が挙げられる。この2項目が連動していることは容易に想定され、今後強化する必要のある分野であるといえるだろう。

後半 9 項目



M～Oの3項目以外は、学年が上がるにつれて修得実感も高まっている。M～Oの3項目は、他者との関係性や組織で動く力であるが、4年生になるとサークル活動などを引退したり、卒論・卒研に集中するために、自分ひとりで独自に追究していく学習の時間が相対的に多くなることが想定され、このことによって3年生までよりも値が下がる可能性は考えられる。特に、M・Nの2項目は、3年生では平均が8を超えており、他者を受け入れ、他者と協力する能力は、演習や実験・実習の本格化や、サークル・部活動でも中心的な役割を果たすであろう3年生のときに最も修得実感が得やすいものと考えられる。

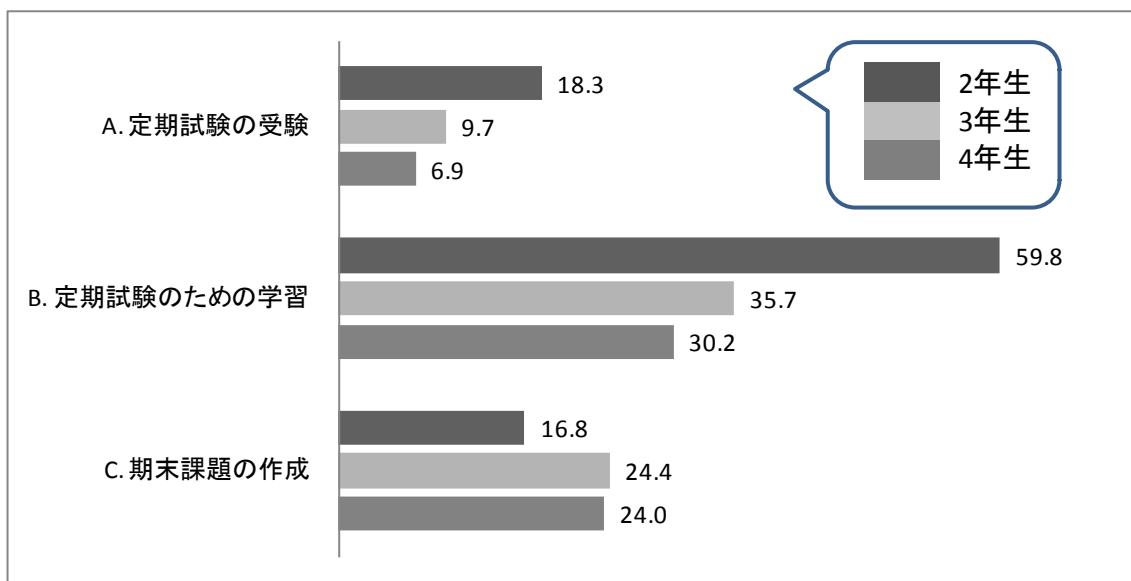
全項目を通じて、最終学年である4年生において平均で8を超えた項目は、「J.情報を収集し、整理する力」、「Q.広い視野から人間を探究する力」であった。これらの項目は、卒業論文・卒業研究の達成に特に関連が深い項目と思われ、この経験による部分が大きいだろう。

2～4年生共通項目

定期試験・休業期間中の学習や課外活動

Q01 あなたは、定期試験や期末課題の作成のために、合計してどのくらいの時間をつかいましたか。

(時間数で回答)

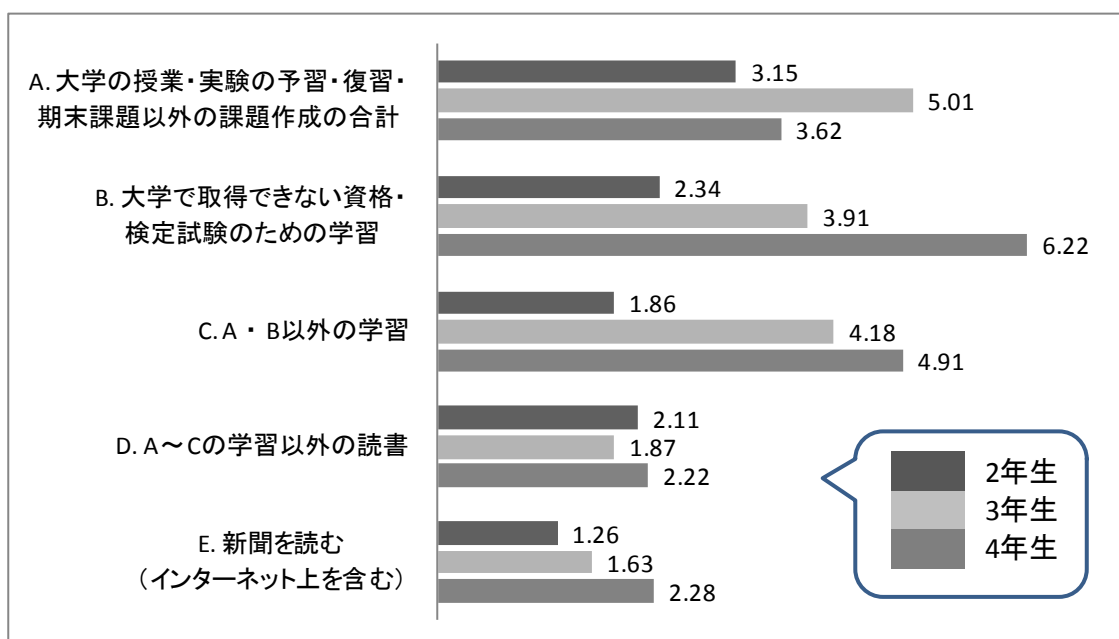


定期試験は、学年が上がるにつれて、受験にかかる時間、定期試験のための学習時間も減っていく傾向にある。期末課題の作成時間は、2年生より3・4年生で多い傾向にあり、履修する授業の形態を反映していると考えられる。演習や実験・実習が多くなる3・4年生では、試験よりも課題の提出が多くなることが現れているといえる。

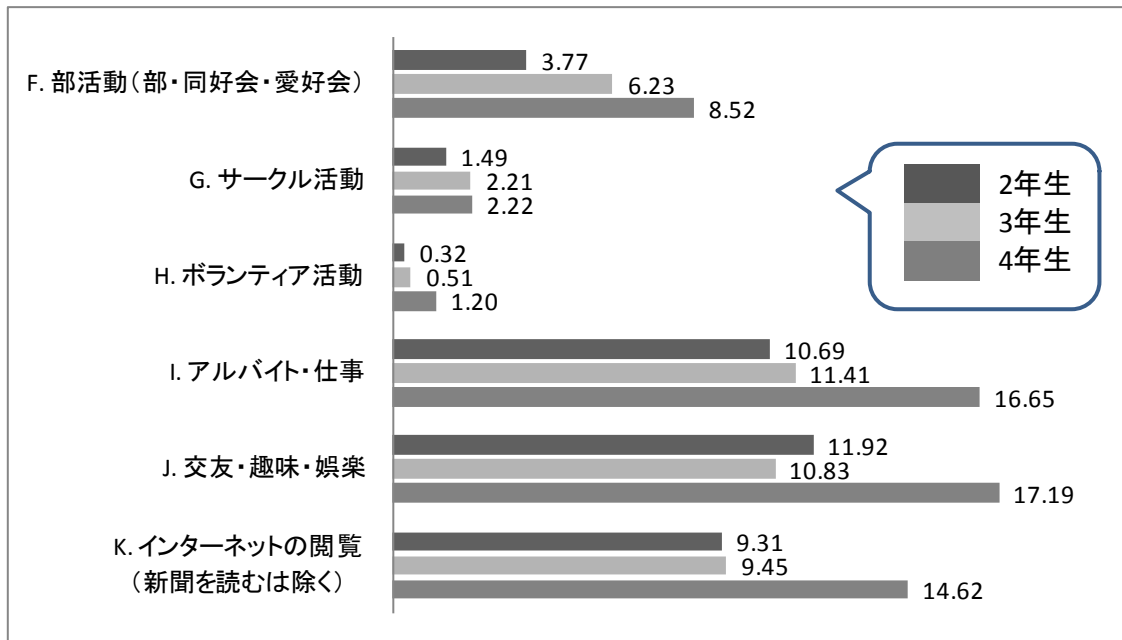
Q02 あなたは、長期休暇中、以下のことがらに1週間あたりどのくらい時間を使いましたか。

(時間数で回答)

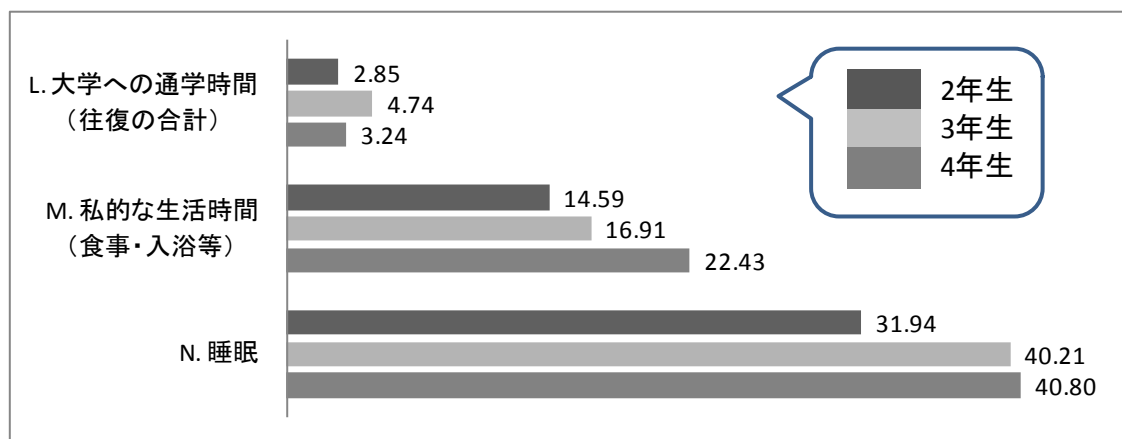
授業関連項目



課外活動やその他の活動関連



生活関連項目



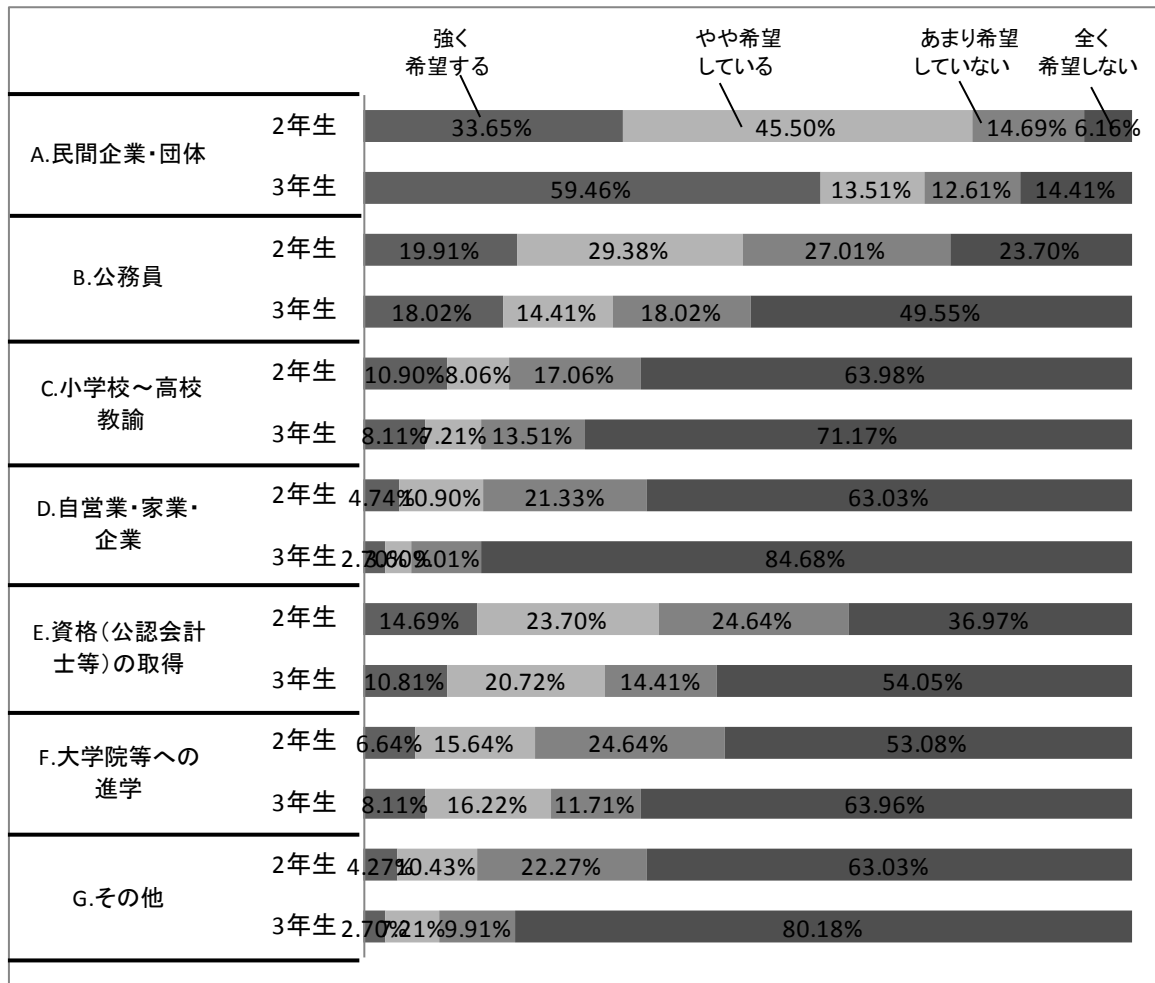
長期休暇の間も、A.の大学の授業等に関する学習はどの学年でも一定程度していることが分かる。特に3年生で多いのは、演習や実験・実習の影響であることが想定される。学年が上がるにつれて、大学では取得できない資格の勉強、その他の学外の学習、新聞を読む時間などが増えるのは、卒業後を見据えた学習にシフトしていることの現れであろう。

課外活動に関しては、ボランティア活動を除き、授業期間中と比較して多くの時間を使っている。ボランティア活動も、4年生に限っては授業期間中よりも多い。また、どの項目も4年生が最も平均時間が多い傾向にあり、部活動やサークル活動、アルバイトに交友・趣味の時間などが顕著に増え、学生最後の休暇を満喫している姿がイメージできる結果となった。

生活関連時間は、授業期間中と比べて大学への通学時間は減り、私的な時間と睡眠時間が増加する。

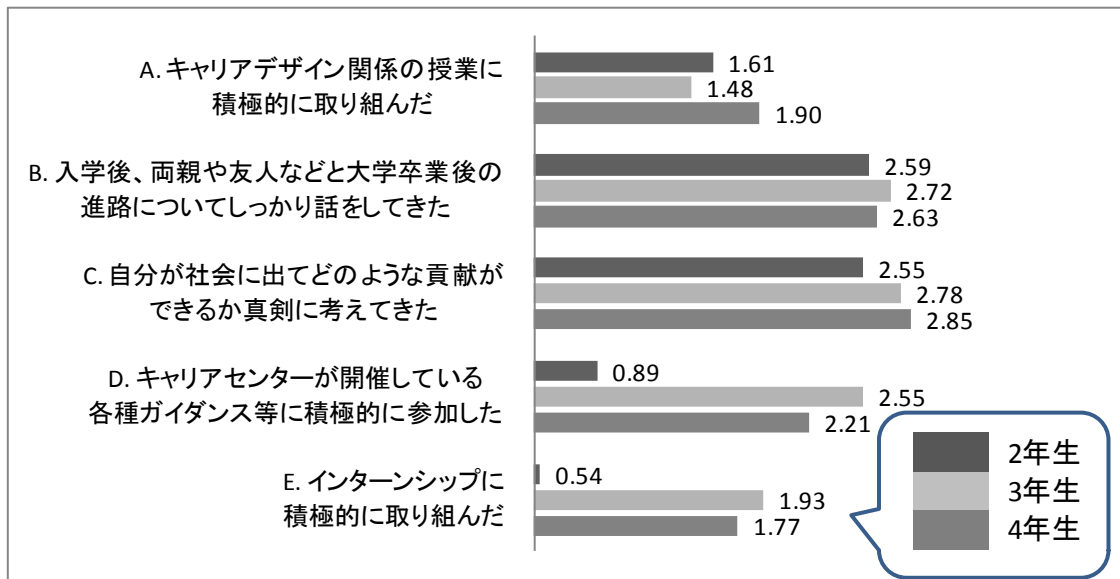
希望進路について

Q03 あなたは、大学卒業後の進路について、現時点でどのような希望をもっていますか。
 (2・3年生のみ) (「強く希望している」(4)～「全く希望していない」(1)の4件法)



民間企業への就職希望が最も高く、順に公務員、資格の取得、大学院、小学校～高校教諭、自営業等となっている。2年生と3年生を比較すると、民間企業への就職を強く希望する学生の割合が3年生で多く、やや希望する学生は2年生の方が多い。同一の人物への調査ではないため単純な比較は難しいものの、2年生から3年生にかけて、進路の希望が焦点化してきていることが考えられる。

Q04 あなたは、将来の進路を考えるにあたり、以下に示すことがらについて、どのくらい取り組んできましたか。(2・3・4年生)
 (「経験しなかった」を0とし、「とてもあてはまる」(4)～「全くあてはまらない」(1)の5件法)



キャリアデザイン関係の授業への取り組みや、進路に関するコミュニケーション、社会への貢献を考えることなどは、どの学年でも行っていることがうかがえる。実際にキャリアセンターのガイダンスやインターンシップへ取り組み始めるのは、ほとんどが3年生からである。

Q05 あなたは、大学在学中、留学(海外短期研修や国際ボランティアなどを含みますが、単なる海外旅行は除きます)の経験がありますか。(3・4年生のみ)

		3年生	4年生
3年生	ある	14.3%	85.7%
	ない		
4年生	ある	29.6%	70.4%
	ない		

	3年生	4年生
1週間(7日)未満	0	1
1週間以上2週間(14日)未満	2	0
2週間以上1ヶ月(30日)未満	7	5
1ヶ月以上2ヶ月(60日)未満	5	4
2ヶ月以上1年未満	2	6

	ある	ない	経験あり学生の平均日数
3年生	16名	96名	52.3日
4年生	16名	38名	104.8日

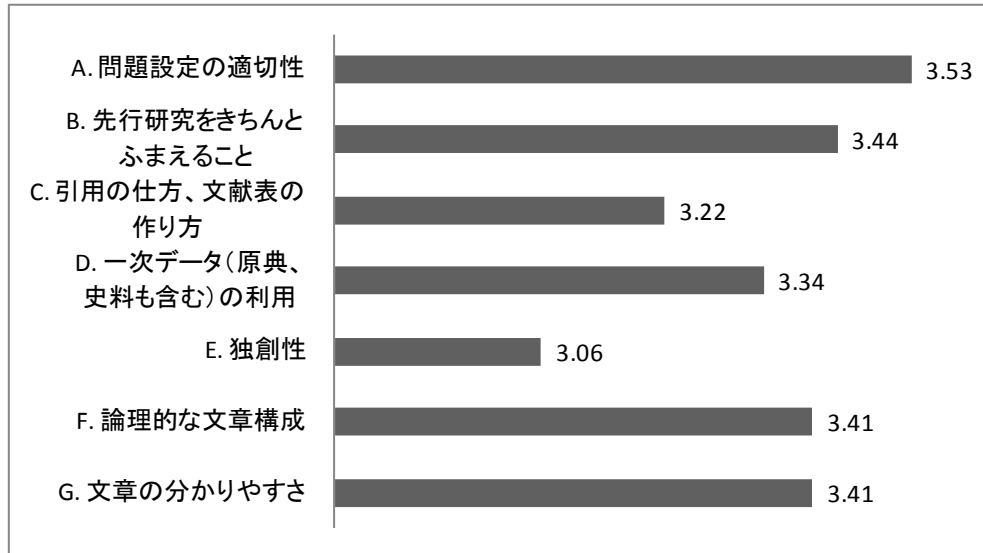
留学経験の人数では、割合・平均日数とも、4年生のほうが多い(「大学在学中」を問う設問のため当然の結果といえる)。3年生は2ヶ月までの経験に偏っているが、4年生では2ヶ月以上の経験者も多くなっていることから、4年生時に比較的長期の留学を経験する学生が多いことがうかがえる。

4年生のみの項目

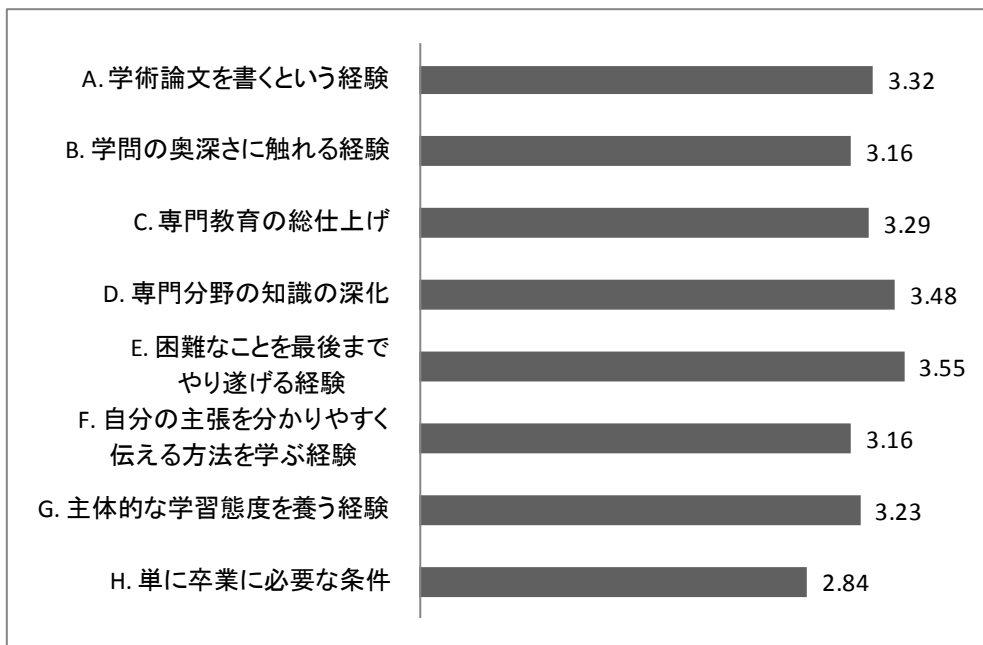
Q01 あなたは、卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）を執筆しましたか。



Q02 卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）を書くときに、以下の点をどのくらい意識していましたか。（「とても意識した」（4）～「全く意識しなかった」（1）の4件法）



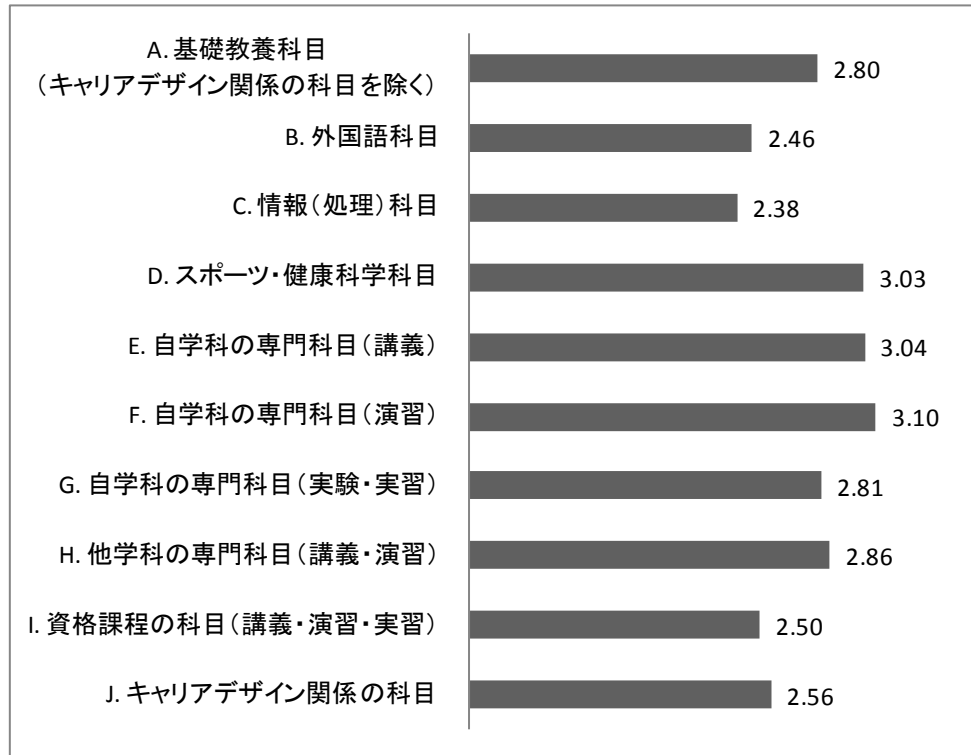
Q03 卒業論文・卒業研究（ゼミ論文等も含みます）の執筆にはどのような意義があったと思いますか。（「とてもあてはまる」（4）～「全くあてはまらない」（1）の4件法）



卒論・卒研は回答者の約60%が執筆している。独創性はあまり意識されない傾向が見受けられるものの、問題設定の適切性や先行研究をきちんと踏まえることがより意識されており、やり遂げる経験や専門知識の深化に意義を感じていることから、研究の基本的な流れにしっかりと則った経験を積むことが主な意義となっているといえるだろう。

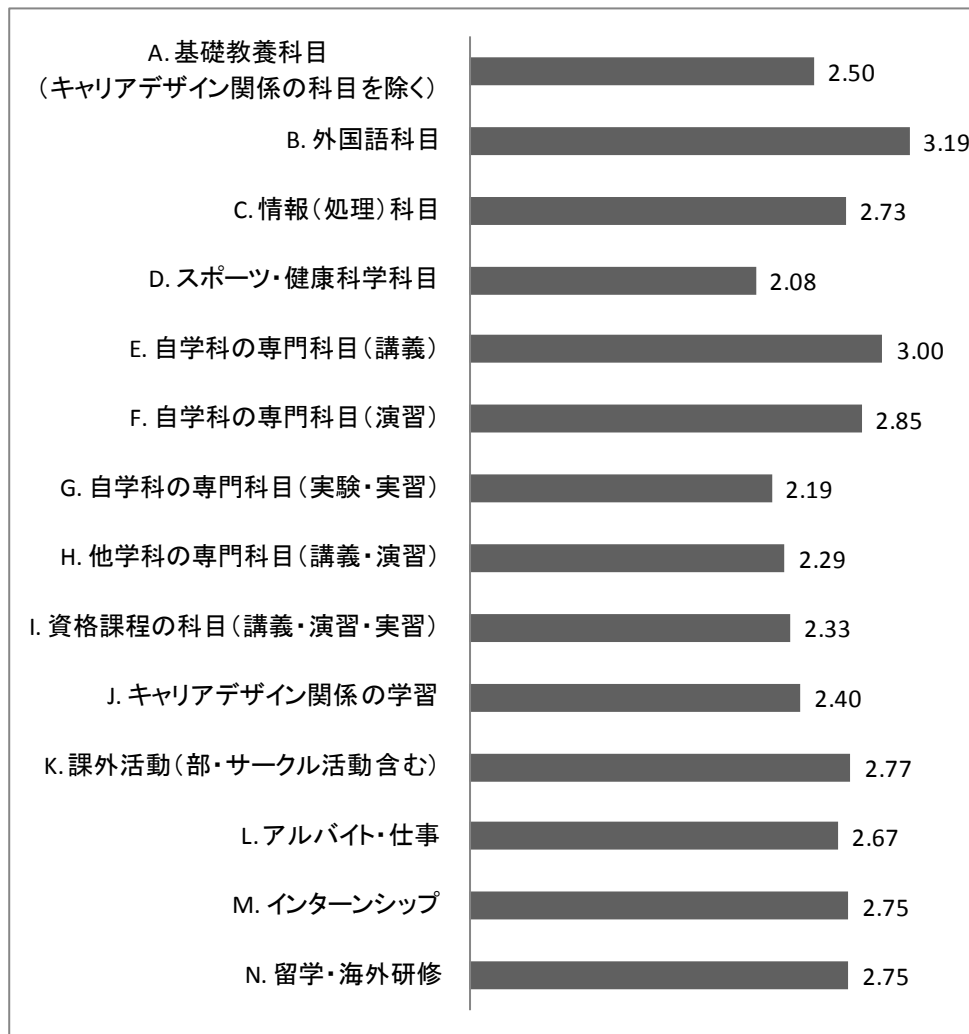
Q04 あなたは、大学の授業の中で、授業を受けることが楽しみだった科目はどの程度ありましたか。

(「経験しなかった」を0とし、「5割以上あった」(4)～「ほとんどなかった」(1)の5件法)



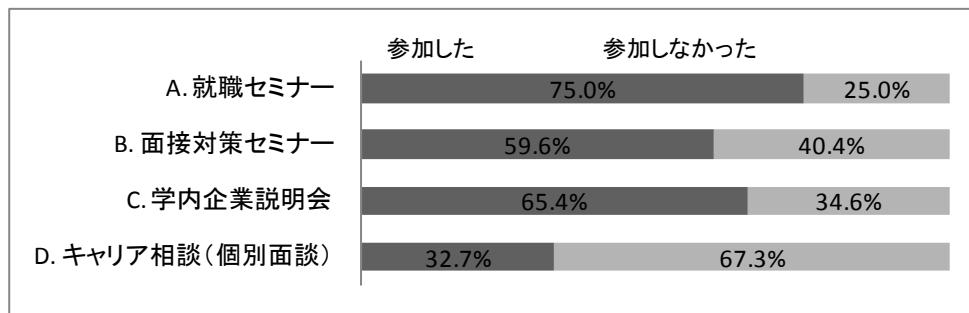
自学科の専門科目は、講義・演習ともに楽しみだった科目の割合が多い傾向にあり、やはり専門科目に対しては期待も大きいことが見て取れる。また、スポーツ・健康科学科目も同様に期待は大きい。反対に、外国語科目、情報処理科目、資格課程の科目、キャリアデザイン関係の科目は、あまり楽しみな科目とはなっていない現状が見受けられる。

Q05 大学時代を振り返って、もっと熱心に学習や経験しておけばよかったと思うことはありますか。（「とてもそう思う」（4）～「全くそう思わない」（1）の4件法）



外国語科目の値が最も高く3を超えており、主に1・2年生時に履修した外国語科目について、当時の熱心さが足りていなかったと感じているようである。自学科の専門科目に関しても次に高い傾向があり、このような必ず履修しなくてはならない授業に関して、振り返ると熱心さが足りていなかったと感じる学生が多いことがうかがえる。

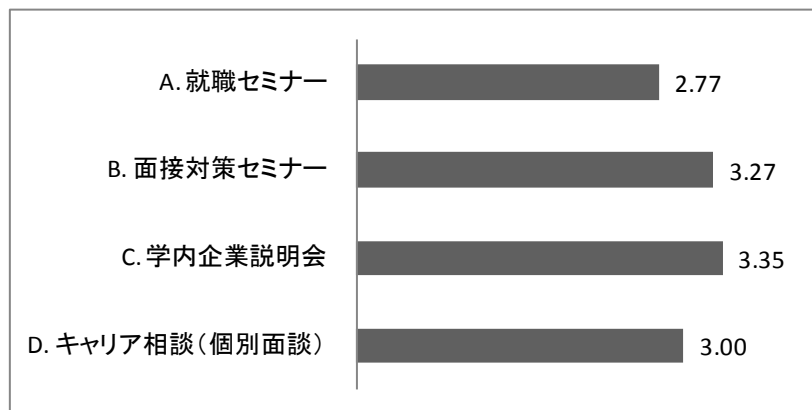
Q06 あなたは、大学在学中、キャリアセンターが開催した以下の行事に参加しましたか。



	参加人数
A. 就職セミナー	39
B. 面接対策セミナー	30
C. 学内企業説明会	34
D. キャリア相談(個別面談)	18

Q06 大学在学中、あなたが参加したキャリアセンター開催の行事についてお聞きします。参加した行事は、あなたの卒業後の進路決定にあたり、どのくらい参考になりましたか。

(「とても参考になった」(4) ~ 「全く参考にならなかった」(1) の4件法)



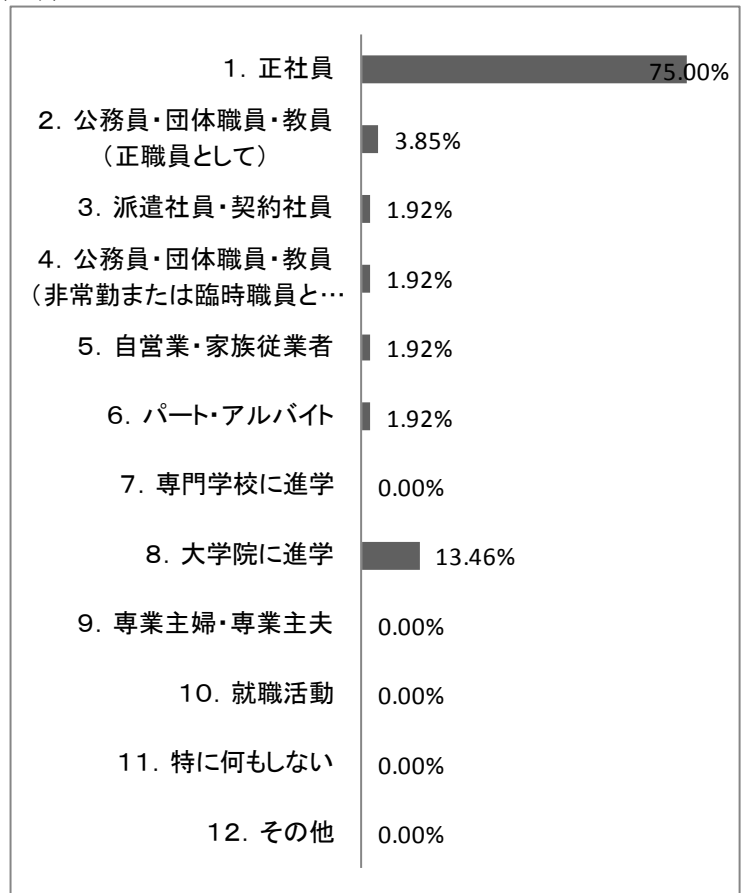
回答者中、キャリア相談(個別面談)は、参加人数は少ないものの、参考になった程度は、参加人数が最も多かった就職セミナーよりも高い結果となった。参考になった程度が最も高いのは学内の企業説明会で、今後参加人数が増加することも考えられるだろう。

Q07 あなたの大学卒業後の進路としてあてはまるものを1つ選んでください。

各項目の人数

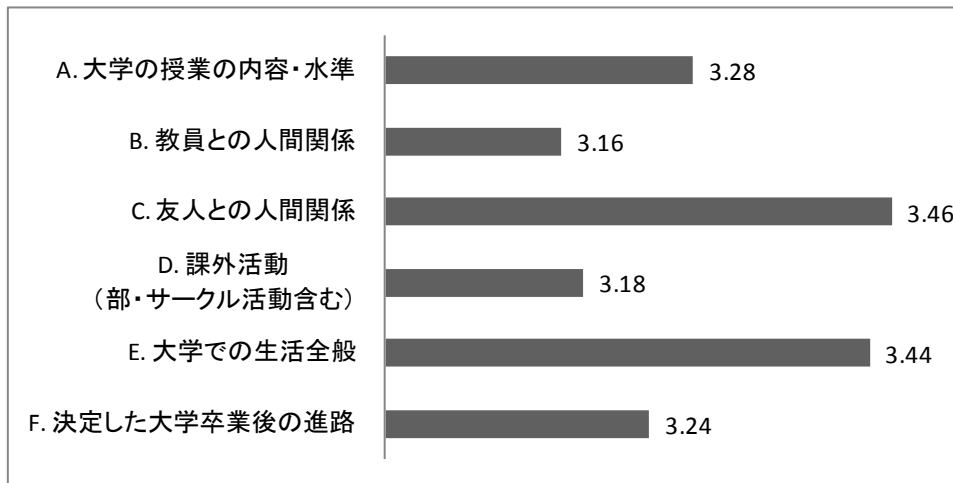
1. 正社員	39
2. 公務員・団体職員・教員 (正職員として)	2
3. 派遣社員・契約社員	1
4. 公務員・団体職員・教員 (非常勤または臨時職員として)	1
5. 自営業・家族従業者	1
6. パート・アルバイト	1
7. 専門学校に進学	0
8. 大学院に進学	7
9. 専業主婦・専業主夫	0
10. 就職活動	0
11. 特に何もしない	0
12. その他	0

割合グラフ



今回の調査に回答した学生の多くは、これから会社員として働く予定であり、大学院へ進学する学生が少し含まれるが、その他はほとんど含まれていないという結果であった。

Q08 あなたは、大学時代の教育や学生生活にどの程度満足していますか。
(「とても満足している」(4)～「全く満足していない」(1)の4件法)



大学時代を通じて、友人関係や、大学での生活全般において満足度が高い結果となり、この2項目は関連性があることが考えられる。全ての項目において、回答の平均は3を超えていることから、概ね多くの学生がどの項目についても満足していることがうかがえる。